



本村幼稚園 1月の園だより

令和8年1月8日 港区立本村幼稚園長

山崎 高志

笑う門には福来る

園長 山崎 高志

明けましておめでとうございます。新しい年、令和8年になりました。今年の干支は「午（うま）」です。干支のなかでも、馬は前向きなエネルギー・成功・繁栄のシンボルとして日本人に長く親しまれてきました。特に縁起の良い言葉として知られているのが「馬九行久（うまくいく）」これは「物事がすべてうまくいくように」という願いを込めた語呂合わせです。また、力強く、まっすぐに前へ進む馬の姿は、新しい一年の背中を押してくれる存在です。修了式までの残りの期間を子供たちと一緒に疾走していきます。

さて、この冬休みはどのように過ごされましたか。幼稚園に戻ってきた子供たちにお正月をどんなふうに過ごしたかなどの冬休みの話を聞くのが楽しみです。お正月と言えば、日本の文化として、「こま回し」や「凧あげ」などのお正月遊びを昨年この園だよりで紹介しました。

実は、冬休み前に保護者の方から子供たちにお正月遊びの一つである「福笑い」を紹介していただき、子供たちは楽しんでいました。ご家庭でやったところがありますか。お正月遊びとして、「福笑い」をするようになった起源や由来ははっきりとしていないようです。定着した時期も定かではないのですが、江戸時代の後期に誕生し、明治時代頃に広く普及したのではないかと伝えられています。「福笑い」で遊んでいる最中の顔やできあがった面白い顔をみんなで笑い合うことから、「笑う門には福来る」ということわざのように、新年の幸せを願う意味を込めてお正月に遊ぶようになったのではないかとされています。お正月に皆で「福笑い」を楽しむことで、自分自身や家族などにめでたいことが起きますようにと祈願する意味があったのかもしれない。

昔から親しまれているお正月遊び。日本の伝統を子供たちに伝えていくのは大切なことです。ここでその他の正月遊びについての豆知識を紹介します。

【羽根つき】1年の厄をはねのけ、子供たちの成長を願うものとして古くからお正月に行われています。羽根を落とした人の顔に墨を塗るというのは、厄除けのおまじないだそうです。

【だるま落とし】だるまを落とさずに成功すれば、「この1年は転ばない（トラブルが起きない）」と伝えられています。小槌で叩く力加減と角度の調整が必要で難易度は高いです。

【おはじき】奈良時代、中国から伝わったとされ、この頃は小石や貝殻を使って貴族が遊んでいたようです。江戸時代に女の子の遊びとして流行し、明治時代にガラス製のおはじきになりました。指先の力の調整やねらいを定める集中力が必要なので、脳の発達にとっても良い運動です。

昔ながらのお正月遊びは、世代を超えてみんなで楽しみながら人とのつながりを深めます。本村幼稚園でも今月15日に地域の方をお招きして、一緒に昔遊びを楽しみます。

さて、これから始まる3学期は次へのステップの土台となる大切なまとめの時期です。4名の子供たちにとって、本村幼稚園での生活の日々が思い出として心に残るように教職員一同、笑顔いっぱい、元気いっぱいに気持ちを新たに進んでいきます。

本年もよろしくお願いいたします。